

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあけぼのIV(ユニットA)	評価実施年月日	平成19年9月
評価実施構成員氏名	・山田 美穂 ・古川 えみ ・泉田 元子 ・由田 絵美 ・梶山 透 ・宮島 園美 ・高橋 清美		
記録者氏名	山田 美穂	記録年月日	平成19年9月

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	これまでの理念を見直し、全職員に、「その人らしく暮らす」事をテーマにアンケートをとり、それを集約し作成している。	○	地域の中で暮らすことも含めて考え、ユニット会議等で見直す必要があると考える。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を、居間・事務室・職員の休憩室に提示し、常に認識し実践している。	○	全職員がもっと理念を認識し、理念に基づいた実践を行えるよう、カンファレンスやユニット会議等で話し合い取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域には、運営推進会議で理解してもらえるよう伝えている。	○	全ての家族には周知されていないため、定期的に発行する通信や面会時を利用し、理念を理解してもらえるように伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者との散歩の際、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしたり、またホーム入り口にベンチを置き、入居者と近隣の人が交流出来るような環境を整えている。	○	挨拶程度のみで日常的には行えていないため、地域の一員としてつきあっていけるように交流をもっていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	現在は積極的に取り組んでいない。	○	行事などを開催する際には、家族や近隣の方々にも案内を出し、積極的に参加してもらい交流を深めていきたい。また、町内の行事や地域活動等にも参加し、交流を図れるようにしていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在は積極的に取り組んでいない。	○	運営推進会議を通じて、町内会や家族からも意見やアイデアを募ってもらい、それを今後の取り組みに反映させていきたい。ユニット会議等でも、どんなことが地域に貢献できるのか話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者・職員は、評価の意義を理解しており、前年度の改善点をユニット会議等で話し合い改善に取り組んでいる。	○	年1回自己評価を行ない、改善点については今まで同様ユニット会議等で話し合い改善していく。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	9月19日に1回目の会議を行ない、地域の方や入居者、家族、職員が参加した。その時の意見を参考にして、サービスの向上に取り組んでいる。	○	開催時には、現在行なっている取り組みや状況の報告を行い、実際の日常生活の場面をスライドで流し、その後意見を募った。そこでの意見等を全職員で話し合い、今後のサービスの向上に生かしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は積極的に取り組んでいない。	○	サービス向上を目指し、市町村との連携の機会を増やしていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者はいないため、勉強会等は設けてない。	○	今後、勉強会・研修を通して学び、必要に応じて、家族と協議し活用していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	地域包括センター主催の勉強会の中で、高齢者虐待防止に向けた取り組み等を他の事業所と意見交換を行い、虐待防止に努めている。	○	もっと積極的に講習会等に参加し、高齢者虐待防止についての理解を深め取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約時には、わかりやすい言葉を用いて、契約書を見ながら内容を充分説明し、家族と充分に話し合い、理解・納得を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者が意見、不満、苦情を言いやすいような関係・雰囲気作りをし、職員からも気づけるよう心掛けている。外部に表せる機会として、ホーム内に外部機関を掲示している。	○	さらに入居者との関係を深め、意見、不満、苦情を言いやすい環境を作っていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	全入居者の家族は、最低でも月に1回は面会に来るので、管理者や職員から最近の生活や身体の状態を報告している。その際、預かり金出納帳の説明と領収証を渡している。2～3ヶ月ごとに通信を送付。3ヶ月に1回(プラン評価時)は、家族に入居者の暮らしぶりや身体状況を担当者が手紙で報告している。	○	3ヶ月に1回の手紙から月1回に増やし、家族にもっと状況を伝えていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来た時には、職員から積極的に話しかけて話しやすい雰囲気を作り、職員からも家族が気づいたこと等の意見や、不満、苦情等がないかを聞くように努めている。玄関には意見箱を設置している。意見等は、カンファレンスやユニット会議等で話し合い、運営に反映させている。	○	今後も、家族が話しやすい雰囲気作りを心掛け、たくさんの意見を頂けるよう関係作りをしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のカンファレンスや月1回のユニット会議等で意見を言う機会がある。	○	日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、職員が意見を出しやすい場面作りをしていきたい。定期的な個人面談も行ないたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度調整を行ない、必要な人員は確保している。	○	柔軟な対応ができるよう人員の確保が必要と思われる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は必要時に少数で行なわれることもあるが、大幅には行なわれていないため、入居者への影響は少ないと思われる。影響がある入居者に対しては、馴染みの関係のできている職員が対応するよう配慮している。	○	異動等により入居者に変化が見られる場合もあるため、馴染みの関係を重視し必要最小限にしたい。離職については極力避けられるよう、職場の雰囲気作りや人間関係に気を付けて、働きやすい環境を作り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	教育委員会より法人内外での研修等への参加を促したり、自己啓発の研修等の案内を貼り出すなどの機会を設けて参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	各職員のレベルを把握し、それぞれのレベルにあった指導ができるよう取り組んでいきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括センター主催の勉強会への参加やグループホーム協議会の研修、勉強会へ参加しているが、その後の付き合いがあまりない。同法人のグループホームとは、委員会等での行き来を行なっている。	○	積極的に地域のネットワーク作りや勉強会に参加し、お互いのサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者からエリアマネージャーへ現場の状況を報告、連絡、相談している。職員の休憩室はあるが、十分な休憩時間が取れていない。	○	個別面談等にて職員のストレスや意見を聞く機会を設けて欲しい。柔軟な対応をするためには、職員の人数の確保していきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者からエリアマネージャーへ現場の状況を報告、連絡、相談している。	○	職員個々の勤務状況等を把握するためにも、各職員の勤務実態を理解して欲しい。職員が向上心を持って勤務できるよう、定期的に個別面談を実施していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に計画作成担当者が本人と面談し、その時の心身の状態や不安、要望等を聴いている。見学可能な方は、ホームへ来て様子を見てもらっている。	○	状況に応じて家族と調整していきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学に来てもらい、管理者や計画作成担当者が不安や要望を聴き、受け止めるようこころがけている。	○	状況に応じて家族と調整していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人・家族・関係機関から情報収集を行ない、ニーズを見極めている。また、必要に応じて他事業所の介護サービスも検討している。	○	状況に応じて家族と調整していきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族・関係機関と情報交換を行い、その情報から職員が日々のケアを検討し、場の雰囲気に馴染めるように工夫している。	○	状況に応じて家族と調整していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の入居者の生活層から、本人が得意としていたことや、出来そうなことを検討し、日ごろから積極的に行ってもらうことで、生活に生きがいを見出している。また、出来ないことに関しては、職員が寄り添い支援することで、信頼関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	評価時に近況報告を家族に手紙で知らせると共に、面会時にも日常生活の様子を伝えることで、家族との信頼関係を構築している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係を職員が理解し、面会に来た際には家族との時間をゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。3ヶ月に1度は手紙で日常生活の状況を報告したりして、よい関係が築いていられるよう支援している。	○	本人と家族の関係をを知り、もっとよい関係が築けるよう支援したい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室に電話を引き、いつでも電話ができるような状態にしたり、馴染みの人や場所との関係が保たれるよう、家族に外出の提案や援助をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、自然と楽しく会話ができるように、職員が間に入るなどの配慮をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても入院先へお見舞いに行くなどしている。	○	関係を断ち切らないように付き合いを大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画作成時に必ず、本人・家族の意向を確認し、プランに反映させており、個々の入居者に合わせた暮らしが送れるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、センター方式を活用し、家族や関係機関から情報収集を行い、生活暦の把握に努めている。	○	センター方式を活用し把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者個々の生活リズムを職員が把握しており、1人1人が共同生活における役割が持てる様な取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の評価時に、本人及び家族の同席のもと担当者会議を開催して意向を聞き、次の介護計画に反映させるよう努めている。また、都合が付かない家族に対しては、面会時に意向を聞くように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施期間を原則的に3ヶ月とし、見直しを行なっている。また、状態に変化が生じた場合は、適時行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	介護計画をもとに、1日の活動内容を事業所独自の生活シートに記載し、職員全員が把握している。また、毎朝のカンファレンスで、介護計画に基づいたサービスの提供を討議し、自立支援に向け取り組んでいる。	○	教育委員会を中心に記録記入の充実化を検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関と連携し訪問診療、緊急時の往診を行っている。また、各種手続きの代行も、協力医療機関のSWIに相談・委託をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に1回ボランティアによる音楽療法を開催している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	個々の入居者ニーズに合わせて訪問看護・訪問リハビリなどを利用している。また、訪問理容、訪問歯科、介護タクシーなども積極的に利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センター主催の勉強会に参加し、意見交換を行いながら、利用者本位のケアマネジメントを継続できるよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	在宅医療管理として、24時間体制で主治医との連携を図っていると共に、医療連携として看護師による健康管理の支援を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医の受診は受けていない。	○	
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携として週1回、看護師が訪問し、日常の健康管理等の支援を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、スムーズに治療が行える様に必要な情報を提供し、退院後も協力医療機関を通じて指導を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、主治医・家族と繰り返し協議した上で、今後の方針を決めており、職員も主治医の指示に従い対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関と連携し、急変時には速やかに対応が出来る状態にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族・関係機関を交えた話し合いを行い、新しい環境に馴染めるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常に入居者に対して尊厳や敬意を払い、その人に合わせた言葉かけや対応を心掛けています。又、個人にかかわる情報は、施設外では一切口外せず、情報の持ち出しも行っていない。	○	接遇や記録の書き方の習得をしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の入居者が適切に理解が出来るような説明を行い、いかなる場面でも本人の意思確認を大切にしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の入居者のペースを尊重して出来る限り、その日の体調や気分に沿った生活を送れるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望に沿った洋服を選んだり、化粧をしたりなど、日々の生活の中でもおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。また、理容に関しては本人・家族の要望を聞き定期的に訪問理容を利用している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の行える範囲を見極めながら、食事の下ごしらえや盛り付け、食器拭きをしてもらっている。また、定期的に入居者と一緒に買い物に行き、季節感のある食材を購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体質やおやつ、飲み物等本人の希望に近づけるように配慮している。	○	買い物に外出する入居者が決まってしまうため、もっと他の入居者も外出できるように支援していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄パターンを把握し、出来るだけオムツに頼らずトイレでの排泄を支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は職員の配置上、午後からになってしまうが、入浴時間や入浴日等はできる限り希望を聞いて対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転しないように、日中適度に活動できるよう支援している。起床時、就寝時、日中の休息は、極端に日常生活に弊害が起こらない限り、個々の入居者の生活リズムに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の入居者の得意な事や好きな事を見極めながら、その人らしく充実した生活を送ってもらうために支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設側で預かり、必要時に渡している。家族同意の下、お金を自己管理したい入居者に関しては、小額のみ管理している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の要望に応じて外出支援を行っている。また、要望がなくても、季節感を感じてもらおうという観点から、出来るだけ多くの外出支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族や本人の希望に沿って、外出や外泊等を積極的に支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、家族等に電話をかけて話してもらっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に家族や友人等が訪問し、気兼ねなく過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本人の嫌がる行為はせず本人の意思を尊重している。講習会勉強会などへ積極的に参加している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の施錠は行っておらず、外出希望の入居者に対しては職員と一緒に行動するなど、常に入居者の行動を把握し対応している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	トイレの声かけは、他の入居者に聞こえないよう、耳元で声かけする等の配慮を行っている。また、日中は勿論、夜間は2時間ごと居室の見回りを行い様子を把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物類は夜間鍵のかかる場所に保管している、また日中も台所を離れるときは、目の付く場所には置かず、台所も施錠する等心掛けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	服薬は、段階的に別の職員が確認する等、未然に防げる事に対しては最大の配慮を行っている。また、事故に繋がりそうな物事に関しては、ミーティングで話し合い、事故防止に努めている。	○	自己研鑽に努めレベル向上に努める。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応は、協力医療機関からその都度指示を受け対応しているが、応急手当や初期対応についての訓練は定期的に行われていない。	○	応急手当や事故発生時の初期対応について、勉強会等に参加し職員全員が身に付けていくと共に、ホーム内でも勉強会を定期的に設けていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火器を設置し、定期的に点検等を行っている。災害時に入居者が速やかに非難できる様な訓練等は行っておらず、近隣の方にも働きかけは未だ行っていない。	○	運営推進会議を通じて、近隣の方に協力が得られるように働きかけていく。また、定期的に非難訓練を行い、災害時、速やかに対応できるよう心掛けていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況の変化が見られた際には、家族に訪問時や電話での連絡を行い、起こりうるリスクや今後の対応を説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行うと共に、変化が生じた際にはその都度、協力医療機関に相談している。また、その都度記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者の薬の情報を毎日確認し、理解している。服薬の支援も毎回注意しながら行っている。症状の変化等見られた際には、直ちに協力医療機関に連絡し、指示を受けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックリストを作成し、毎日確認している。トイレに行った際には、腹部マッサージを行い排便を促している。食事に関しては外注ではあるが、野菜中心の献立になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯の方は毎回職員が歯ブラシにて洗浄し、夜間は洗浄剤につけている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材は専門業者に依頼しており、管理栄養士がカロリーやバランスを考慮したメニューを考えている。水分は入居者の好みに合わせる様配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、それに基づいて実行している。また、インフルエンザ等の流行時には、入り口に張り紙をして家族等にもうがい、手洗いを呼びかけている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品衛生管理マニュアルがあり、全職員が把握し実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に植木鉢を置いたり、ベンチを置いて気軽に休息したり、立ち寄れる雰囲気を作っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りを壁に飾ったり、入居者が作った作品等も飾っている。また行事で撮影した写真等も貼って、家族が気軽に見ることが出来る様にしている。	○	季節感を取り入れた飾り付けを継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置いて、休息の場を設けたり、畳の空間があり、気軽に休息できるようにしている。また裏庭には、家庭菜園が行える畑があり、好きときに耕したり、目の前のベンチに座りお茶を飲みながら、談話ができる空間がある。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の家族に、在宅時に使用していた家具や、使い慣れた物を持ち込んでもらうように呼びかけている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房設備が整っているため、年間を通して快適に生活が出来る様配慮している。また、冬季間は暖房による乾燥を防ぐため、加湿器も使用している。換気に至っては、ホールや各居室の窓や換気口を定期的にかけて換気をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は完全バリアフリーで、ホールや廊下も車椅子が通りやすいよう、広々としたスペースを設けている。安全面に関しては、ホール・廊下・居室全てに手すりを設置している。また、トイレも自立用と車椅子用があり、個々の入居者の身体状況に合わせて利用している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所を分かりやすいように、通路やドアの前に張り紙をしたり、各居室の前に写真や手づくりの作品を貼って、自分の居室だと分かるような配慮をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に花や野菜を植えて、入居者と職員と一緒に水撒きや草むしりを行っている。また、天気の良い日は、裏庭の前に敷物を敷いて、くつろげる場所を設けている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

グループホームでの生活が、利用者様一人一人にとって、認知症を抱えながらも、その人らしさを保ちながら安心して穏やかに生活を送れる様に、職員が一丸となって支援している。